



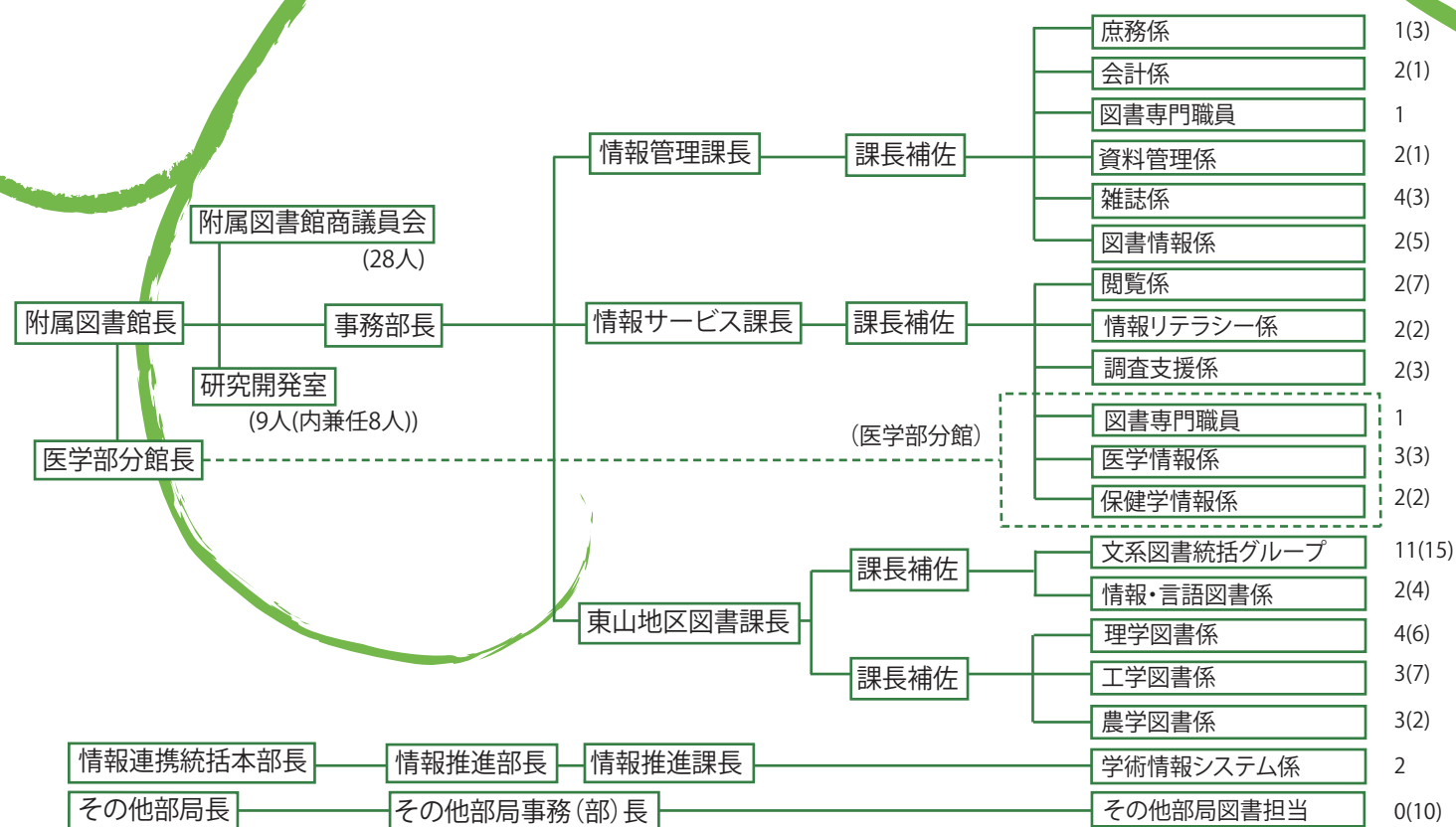
- 0 中央図書館 1 文学図書室 2 教育発達科学図書室
- 3 法学図書室 4 アジア法資料室(法学図書室分室)
- 5 経済学図書室 6 国際経済政策研究センター情報資料室
- 7 情報・言語合同図書室 8 国際開発図書室 9 理学図書室
- 10 工学中央図書室 11 化学・生物図書室 12 電気・情報図書室
- 13 機械・航空宇宙図書室 14 土木図書室
- 15 生命農学図書室 16 環境医学研究所図書室
- 17 宇宙地球環境研究所第一図書室, 未来材料・システム研究所
- 18 宇宙地球環境研究所第二図書室 19 情報基盤センター図書室
- 20 総合保健体育科学センター図書室 21 国際機構図書室
- 22 創薬科学図書室 23 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ



名古屋大学附属図書館概要

2019

附属図書館の運営及び事務組織



単位:人
()内は非常勤



附属図書館の基本目標(2014年3月制定)

- 中央図書館, 医学部分館, 部局図書室のそれぞれの特性を生かし, 学内外の組織とも連携し, 学生, 教職員及び社会のニーズに応える先進的な利用者サービスの実施により, 以下の目標の実現を目指す。
- (1) 研究・教育学修に必要とされる学術情報の提供を行うため, 電子ジャーナル, データベース, 電子書籍等の電子資料を含む学術情報の効率的収集を行い, 充実を図る。
 - (2) 貴重資料や特色ある資料をはじめとする知的資産の収集を行い, 東海・北陸地区の基幹大学としての役割を果たすべく, 保存管理体制を構築する。
 - (3) 学生の創造的能力の向上を目指すため, 学修環境を強化し, 充実した教育学修支援を行う。
 - (4) 研究・教育学修支援を行うため, その専門知識を有する図書系職員を育成し, 適正に配置する。
 - (5) 国際的な研究・教育学修支援のため, 多言語の情報提供を行う。
 - (6) 学術情報流通の拠点として, 名古屋大学の知的研究成果を国内外に発信し, 開かれた学術情報の提供を行う。
 - (7) 地域社会との連携を積極的に進め, 地域の知的資産等の保存・継承に協力する。

沿革

1939年 4月	名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設, 各学部に図書分室設置	1973年 3月	鶴舞キャンパスに医学部分館設置
1942年 4月	理工学部が工学部と理学部に分離, 両学部に 図書分室設置, 東山キャンパスへ移転	1981年 9月	新中央図書館開館
1945年	空襲により図書館資料の一部焼失	1994年10月	中央図書館増築工事竣工
1946年 3月	環境医学研究所附置に伴い図書室設置	2001年 4月	附属図書館研究開発室設置
1947年10月	名古屋大学附属図書館に改称	2006年 2月	名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開
1948年 9月	文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書 分室設置	2009年12月	中央図書館にラーニング・commons設置
1948年10月	附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町 へ移転	2010年 5月	中央図書館にコーヒーショップ開店
1950年 4月	法経学部の分離に伴い法学部図書室, 経済学部 に図書分室設置	2010年 7月	理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
1952年 4月	瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区 瑞穂町)設置に伴い図書分室設置	2011年 6月	工学部中央図書室がES総合館に移転開室
1952年 9月	農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置	2012年 6月	金沢, 静岡, 名古屋大学附属図書館による「学習支援促進 のための三大学連携事業に関する協定」締結
1960年 8月	文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置	2014年 3月	中央図書館老朽対策等基盤整備事業竣工
1964年12月	東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館	2015年 3月	医学部分館(鶴舞・大幸キャンパス)改修事業竣工
1966年 4月	農学部(図書室)東山地区へ移転	2016年 4月	名古屋大学オープンアクセスポリシー制定
1970年10月	附属図書館報『館燈』創刊	2017年 3月	アイントープ総合センター図書室廃止
		2017年 4月	附属図書館支援事業(特定基金)設置
		2017年10月	附属図書館事務部組織の再編
		2017年11月	ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館
		2018年 7月	ピブリオサロンをOKB高木家文書資料館へ改称
		2019年 7月	高木家文書が国の重要文化財に指定される

数字で見る附属図書館(2018年度)

サービス対象者数 25,331人 (学部生 10,017人, 院生 6,377人, 教員 3,603人, 職員 5,334人)

蔵書数

	和書	洋書	合計	所蔵雑誌 種類数
中央図書館	699,033	528,846	1,227,879	17,787
医学部分館	115,211	88,654	203,865	5,825
部局図書室	991,439	914,348	1,905,787	31,227
合計	1,805,683	1,531,848	3,337,531	54,839

図書館サービス

	開館日数	入館者数 ()内学外入館者	貸出冊数
中央図書館	353	763,319 (41,167)	181,795
医学部分館 (保健学図書室除く)	275	115,903 (457)	4,785
部局図書室	57~275	408,929 (3,685)	96,045
合計	—	1,288,151 (45,309)	282,625

図書館経費

	中央図書館	医学部分館	部局図書室	合計
図書費	324,194	110,698	419,893	854,785
図書費のうちEJ相当分	218,844	82,184	249,306	550,334
運営費	201,323	22,527	67,823	291,673
合計	525,517	133,225	487,716	1,146,458

相互利用(中央館)

	受付件数		依頼件数	
	国内	海外	国内	海外
文献複写	2,473	68	3,434	68
現物貸借	1,187	1	1,224	11

参考質問件数(中央館) 1,451件

電子図書館サービス

電子ジャーナル提供数	20,678誌
電子ジャーナルダウンロード件数	2,707,759件
電子ブック提供数	23,674種
データベース提供数	43種
データベース検索数	499,295件
NAGOYA Repository登録件数	25,928件
NAGOYA Repositoryダウンロード件数	1,229,682件

施設

	面積(m ²)	座席数
中央図書館	15,597	1,133
医学部分館	2,964	476
部局図書室	9,160	586

ラーニング・commons

中央図書館ラーニング・commonsは, 自律的な学習を支援し, 知識の創造を促す図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生のみなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして, 協同学習, ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供

→ <https://lc.nul.nagoya-u.ac.jp>



おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は, 美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする, 旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており, 幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか, 他に例をみない, 傑出した規模と内容を有しています。

高木家文書は, 旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく, 国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから, 高い評価と注目を集め, 様々な分野で活用されてきました。

現在までに6万2,000点余が目録化されており, 附属図書館研究開発室では, 残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに, 損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善, 利用環境の向上に努めています。



木曾三川流域大絵図
高木家が河川管理に用いた宝暦治水(1754-55年)以前の流域環境を示す絵図。

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本188冊を集めたもの。
『錦窠植物図説』『錦窠魚譜』『錦窠蟲譜』などの図譜のほか, 『採草叢書』などがある。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である水田洋名古屋大学名誉教授の旧蔵書で, 近代西欧社会思想史関係の原典2,255点, 水田名誉教授宛ての書簡45点を含む約7,350冊のコレクション。

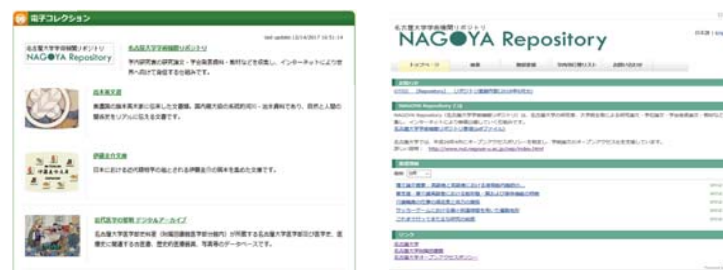


水田文庫の一部



宝暦4(1754)年2月15日付 起請文

学術情報のデジタル化・情報発信



電子コレクション→ http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/e_collect/

附属図書館が所蔵する高木家文書, 伊藤圭介文庫, 和漢古典籍の電子化により普段接することのできない貴重資料を電子コレクションとして公開しています。

また, NAGOYA Repository(名古屋大学学術機関リポジトリ)を構築し, 学術論文や学位論文など学内で生産された学術情報の発信を行っています。

NAGOYA Repository→ <https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>

研究開発室

2001年4月に設置された附属図書館研究開発室では, 全学における教育研究支援機能の高度化を図るため, 電子情報資源と伝統的紙媒体資料を統合したハイブリッド図書館の実現に向けた研究開発を行っています。

主な研究課題

- 貴重資料のデジタルアーカイビング
- 地域諸施設との連携と地域社会への貢献
- 情報リテラシー教育の普及と高度化
- 教育研究支援のためのシステム開発

刊行物

- 附属図書館研究年報
- 附属図書館研究開発室年次報告

